

窪田議員（自民議連）

令和3年10月1日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）県立図書館の現状と課題について

県立図書館は利用が低迷していて、県民にとって魅力ある図書館と言えないようであるが、県立図書館の現状と課題をどのように認識しているか、教育長に伺う。

（答）

県立図書館では、平成21年度の事業仕分けの意見とその後実施した県民アンケート結果を踏まえ、

- ・ 専門性の高い資料の収集やレファレンスの提供、
- ・ 市町の図書館を窓口として県立図書館の資料を借り受け返却できる「物流」制度の充実、
- ・ 市町立図書館職員の研修の実施など、県立図書館ならではの役割に特化した取組を行ってまいりました。

この中で、近年、他の先進的な公立図書館の取組を分析するなどして、限られた予算の中で、県立図書館の機能をより発揮する観点から、

- ・ 専門性の高い資料の収集、
- ・ 市町の図書館を窓口とする物流制度の拡充、
- ・ 学校図書館活性化への支援

に注力してきたところでございます。

こうした取組を進めた結果、令和2年度の入館者数は、平成22年度と比較すると、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、約45%の減となっておりますが、資料の貸出冊数は、約4%の減にとどまっている状況でございます。

一方で、レファレンス受付件数が近年減少傾向にあることなどを踏まえると、今後、取り組むべき課題としては、県立図書館の役割である専門性の高い資料や郷土資料の収集とその価値の発信を強化していく必要があると考えております。

また、市町立図書館を窓口とする物流制度の充実や学校図書館の活性化も引き続き取り組んでいく課題であると認識しております。

さらに、コロナ禍にあって、臨時休館の措置を取らざるを得ない状況にあっても、県民の皆様の学びを止めない県立図書館の在り方も、喫緊の課題の

一つであると認識しております。